

平成20年度
萌える天北オロロンルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 事務局長 佐藤太紀	報告年月: 2009/3/31
---------------------	----------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括	
	ルートストーリー(添付参照)		1	フォトコンテストプロジェクト	(社)留萌青年会議所	平成19年7月~20年12月	150人		景観形成についての総括 ・海岸清掃をはじめとして、植栽・植樹活動は年々活発的な展開がなされてきた。そもそもより沿線に風車建設など環境に対する適応性があったが、景観という概念では、さほど気に留めないところがあった。しかし、自生種の植栽、シーニックの森などを機に景観を意識する動きの展開が見られ始めた。 ・子供たちを巻き込んだり、清掃時発生する漂着物(流木)などを活用したりと更なるステップを試みようという動きが見られたのも今年度は特徴的であった。 ・今後はこれまでの活動をしっかりと検証し、更なる研究や活動を展開していきたい。	
			2	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	小平行来	平成20年5月~10月	100人			
			3	景観診断プロジェクト	留萌開建(協力:萌天)	平成20年9月~11月	50人			
			4	葉種・ヒマワリ グリーンエネルギープロジェクト	苫前町商工会青年部	平成20年5月~10月	50人			
				5	フォーラム開催プロジェクト	運営委員会	平成20年9月	10人		
				★6	ヒラメ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	遠別商工会、	平成20年1月~7月	400人	MO - 1	観光振興についての総括 ・ヒラメ底建網オーナープロジェクトでは、ルート内の品質の高い海産物をこれまで遅れていたブランド力強化という意味と、観光振興の活性化ときっかけ、機運の醸成などといった多方面での切り口で展開された。 ・地元産品あるいは歴史文化の品質の高さは自他共に認める道内、全国でもトップクラスのものが多いが、知名度の低さや戦略不足であったが、その分、のびしろは計り知れないということで、更にルート全体で研究し、実践が必要であることがわかった。
				7	萌天の森プロジェクト	遠別商工会	平成20年5月~10月	50人	MO - 2	
				8	情報発信プロジェクト	地域情報発信システム実行委員会	通年	100人		
	景観・環境保全・歴史文化		★9	熊道プロジェクト	苫前町観光協会	平成20年8月	200人	MO - 3		
	景観・環境保全・レクリエーション		★10	苫前サイクリングプロジェクト	苫前町商工会青年部	平成20年8月23日~24日	50人		地域づくりについての総括 ・主に情報発信システム実行委員会が主導し、情報発信のあり方を研究し、ルート内で老若男女100名近くの地元情報員により、リアルタイムの様々な情報を集約し、また、イベントや観光情報の一元化を図りつつ、各マチの思いを尊重したなかで、情報連携を図った。 ・熊道プロジェクトなどでは、訪れる方々と地元の商店や一次産業従事者との交流を図り、設え方や、来訪者のニーズやウォンツについても考え、地域で取り組むための方法や人材育成などの動きがあった。 ・プロジェクト発足に至らなかったものでも、地元産品の新たな商品開発と展開について、多くの団体個人が携わり、次年度の活動に期待が持てる動きも展開され始めた。	
	環境保全・レクリエーション・歴史文化		★11	天塩川河口流域からオロロン ラインへオロロンライン大作戦	留萌商工会青年部連合会	平成20年6月~11月	100人			

※表中"★"はH20新規活動

参考資料1 これからのプロジェクト

(1) プロジェクトの構成

活動のテーマ		『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』															
		1. 景観			2. 食			3. 環境保全			4. レクリエーション			5. 歴史・文化			
ルートストーリー（将来展開）		<p>萌える天北オロロンルートには、この地の風景を楽しむために多くの人が訪れています。地域の人は、沿道に花を植え、見苦しい看板や廃屋を取り除き、また、地域にふさわしい建物や施設のデザインを検討しながら、ルートの風景に愛着と誇りをもって、様々な取り組みを継続的に進めます。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、まず自らが自然の恩恵である地元の食材を味わい、楽しむために、生産者と消費者が一体となった地域ぐるみの活動を展開します。また、さらに多くの人たちに味わってもらうために、その魅力をPRし、新しいメニュー作りにも取り組みます。このような活動を通して地域ブランドを構築し、この地域の「食」が全国、全世界へと発信します。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、CO2削減に向けた新エネルギーの導入や、身近なゴミの問題、そして地域の生態系を守り育てる活動などを通して自然との共生を実践し、環境先進地域として、他に先駆けた取り組みを進めます。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、私達が楽しんでいるアウトドアスポーツやカルチャーメニューを一つ一つ丁寧に用意するとともに、迎える側としてのホスピタリティを充実し、地域を訪れる人々との間に笑顔と暖かい交流を世界へと広げます。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、先人から受け継いだこれらの貴重な資源を守り育て、そして、過去から現在にいたる悠久の物語を語り継ぎます。また、この地ならではの気象や地形、また人々の気質や共有される価値観に根ざした生活文化を将来に伝えます。</p>			
基本方針		愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出			自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信			地域に優しい『くらしぶり』のお手本づくりと促進			暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり			先代の暮らしぶり新たな価値観を将来に伝え楽しむ			
基本方針におけるキーワード		風景との出会い	観つくり	成愛着と誇りの醸	つけ地場産品の魅力	画新メニューの企	構築地域ブランドの	づくりクリーンエネルギーのイメージ	組みゴミ対策の取り	保全・復元身近な生態系の	のサポートロングドライブ	身の紹介身近なアウトドア	各種カルチャー活動による交流	歴史資源の保全と活用	伝承次世代への歴史	独自の生活文化の発信	
プロジェクト	1. フォトコンテスト	●											●			●	
	2. エゾカンゾウ植栽活動		●							●			●				
	3. 景観診断	●		●							●						
	4. 菜種油・ヒマワリクリーンエネルギー	●	●					●					●				
	5. フォーラムの開催	●					●	●			●			●			
	6. 食材オーナー制度				●	●	●										
	7. 萌天の森		●					●		●	●						
情報発信（全項目に関係）		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
長期展望	（想定）ルートを満喫できるツアー	●			●			●						●			
	（想定）萌天グッズの企画・開発						●									●	
	（想定）食と観光の情報デスク	●				●					●			●			



ヒラメ底建網オーナーin遠別プロジェクト

【内 容】 少量多品目という食の特性と持つ、当ルートの遠別漁協、遠別産業振興公社、そして留萌市のエフエムもえるが協力して、遠別の特産であるヒラメを地元はもちろん、全国に発信するため、オーナー制度を構築。全国から882人の応募があり、選ばれた120人のオーナーは、漁イベント当日に揚がったヒラメや雑魚を山分けした。

漁当日には、遠別漁港で地域物産販売や、道の駅弁、地元の山芋を使ったトロどんぶりなどをはじめ、地元の農業高校生が作った花なども実演販売され、約40人のオーナーをはじめ、地域住民もイベントを終日楽しんだ。平成21年は、より地元色が強い組織形態で実施されることが決定している。

【日 時】 平成20年6月21日（土）

【場 所】 遠別漁港

【主 催】 ヒラメ底建網オーナーin遠別実行委員会（遠別漁協、遠別農業高校、エフエムもえる）

【協 力】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議、(株)遠別産業振興公社、遠別地域マリンビジョンフォローアップ委員会

【後 援】 留萌開発建設部、北海道留萌支庁、遠別町



出港の様子



ヒラメひらき方教室



パネル展



出店状況

萌天の森プロジェクト

【内 容】 環境に配慮したドライブ観光の推進や、豊かな生態環境の創出、地域活性化の気運を高めるなどを目的として、遠別町の『萌天の森』で植栽活動を行っている。
4月及び5月にはグイマツ、栗、果樹の植栽を行った。さらに、8月、9月には下草刈りを行った。
また、カーボンオフセット型ツアーによる「シーニックの森」づくりとも連携しており、植栽の受け入れ地としても取り組んでいる。9月にはシーニックバイウェイ支援センター主催による、カーボンオフセットツアーでの植樹の受け入れを行い、トドマツ、カラマツの植栽を行った。

- 【日 時】 平成20年9月24日（水）
- 【場 所】 天塩郡遠別町丸松
- 【主 催】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議
- 【後 援】 北海道開発局留萌開発建設部



植樹活動状況



下草刈りのメンテナンス

寄り道しようよ！ 罨道！！プロジェクト

【内 容】 『苫前町三毛別ヒグマ事件』は、ライダー独自のコミュニティによって知れわたった観光スポットとなっています。一方、地元の飲食店等には、全国各地から口コミで多くのライダーが立寄っていますが、様々な情報交換の中では『苫前町三毛別ヒグマ事件』現場への経路が判りづらいといった声も聞かされています。このことはヒグマ事件現場に限ったことではなく、幹線道路から離れた『バイウェイ』に観光資源が点在するというルート全体の共通の課題（特徴）でもあるのです。

そこで、本プロジェクトでは、ライダーの小気味な徘徊性や独自の情報ネットワークに着目し、沿道施設における情報（接客、ウェブ、パンフ、案内板）の整備を試験的に行い、同時にライダーへのアンケートを実施して、ルート全体における『しつらえ』を形成するための考え方や、観光資源の良さを伝える情報コンテンツを明らかにします。

【日 時】平成20年8月11日～31日

【場 所】苫前町

【主 催】苫前町観光協会・苫前町商工会青年部

【協 力】苫前町郷土史研究会・苫前町イメージアップ協議会

【参加人数】300人



三毛別ヒグマ事件復元現場



仮設誘導看板設置状況



来訪の記念としてのフラッグ

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 事務局長 佐藤太紀	報告年月: 2009/3/31
---------------------	----------------	-----------------

活動団体
 増毛町観光協会、増毛漁業協同組合、増毛町商工会、ゆうゆうマーシーの会、豊かな森川海人をつくる増毛実行委員会、新星マリン漁業協同組合、南るもい農業協同組合、留萌商工会議所、社団法人留萌青年会議所、留萌観光協会、エフエムもえる、小平町観光協会連合会、小平町商工会、NPOラシス・オビラ、小平行来、苫前町観光協会、苫前町商工会、苫前町農業協同組合、北るもい漁業協同組合、羽幌町観光協会、羽幌町商工会、オロロン農業協同組合、初山別村商工会、初山別村観光協会、遠別町観光協会、遠別商工会、遠別漁業協同組合、株式会社遠別産業振興公社、天塩町観光協会、天塩町農業協同組合、天塩商工会、フラワーフレンドリーてしお、天塩川を清流にする会、幌延町観光協会、幌延町商工会、幌延町農業協同組合、NPO法人サロベツ、地域情報発信システム実行委員会

ルート運営体制(活動団体)
 萌える天北オロロンルートでは、活動テーマ:『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』の実現のためにルート運営代表者会議を意思決定機関とし、活動の窓口となる幹事を中心とした運営機構によって、各種活動の調整やルート運営活動計画と具体的な活動との整合・提案・調整などを行います。各活動は、先に示した5つのルートストーリーとキーワードに基づき、活動団体等からの発意によって、プロジェクトを立ち上げます。プロジェクトは、複数のプロジェクト担当および運営機構(代表・幹事、事務局)により構成する「プロジェクト会議」において、ルートストーリーに基づきプロジェクトの整合と相互の調整を検討した上で各種活動を展開します。

基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ルート運営代表者会議		●											各プロジェクトを通じて広く人間関係を構築でき、情報共有が出来るようになっている。
幹事会	● 1回	● 2回	● 3回	● 4回	● 5回	● 6回	● 7回	● 8回	● 9回	● 10回	● 11回	● 12回	
プロジェクト会議	● 5回	● 6回	● 10回	● 8回	● 9回	● 5回	● 3回	● 2回	● 3回	● 2回	● 3回	● 3回	

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2009/3/31
---------------------	--------------	-----------------

基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政連絡会議の実施		● 5/12											
行政連絡会議地方分会の実施										●1/23 (留萌南部) ●1/30 (留萌中部)	●2/5 (留萌北部)		

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者: 留萌開発建設部		報告年月: 2009/3/31				
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成20年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No	
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	景観診断ワークショップ (遠別町・初山別村・小平町・留萌市・増毛町・吉前町・羽幌町)	9月18日(遠別町) 10月11日(初山別村) 10月9日(小平町) 10月14日(留萌市) 10月17日(増毛町) 10月22日(吉前町・羽幌町合同)	留萌市、増毛町、小平町、吉前町、羽幌町、初山別村、遠別町 留萌開発建設部	留萌管内の道路景観の保全と利活用について、各地域の活動団体と協働により、地域の景観形成についての意見収集を行った。また、同時に国道における道路付属施設等の地域ニーズの把握ができた。		3	
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	景観現地調査	11月7日(遠別町・天塩町・幌延町合同) 11月19日(留萌市・増毛町・小平町合同) 11月27日(吉前町・羽幌町・初山別村合同)	留萌市、増毛町、小平町、吉前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町 留萌開発建設部	景観診断ワークショップでの意見を踏まえ、各地域での重要となる箇所(ビューポイント・ハーキング核補地や景観保全箇所)を抽出し、現地確認を行い具体的な取組について意見交換を行った。	地域ニーズを把握出来たことにより、今後の沿道景観整備に向けた具体的な対応を今後進めていく。	3	
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	国道沿道における景観調査に関する意見交換会	1月23日(留萌市・増毛町・小平町合同) 1月30日(吉前町・羽幌町・初山別村合同) 2月5日(遠別町・天塩町・幌延町合同)	留萌市、増毛町、小平町、吉前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町 留萌開発建設部 留萌南部森林管理署 留萌北部森林管理署 留萌支庁 留萌土木現業所	地元団体からの意見を踏まえ、各関係機関での取組状況や今後の対応策や課題について意見交換を行った。	地元団体からの意見を踏まえ、各関係機関での取組状況や今後の対応策や課題について意見交換を行った。	3	
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	第2回萌える天北オロロンルートフォトコンテストへの協力及び広報	H19.7.1~H20.9.30(作品募集)	留萌市、増毛町、小平町、吉前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町	各自自治体のHPにフォトコンテストのバナーを貼り、作品募集の広報を行った。	各自自治体のHPにフォトコンテストのバナーを貼り、作品募集の広報を行った。一般部門は104点、携帯部門は18点の作品応募があった。	行政としてのネットワークを活用し、今後は効果的な時期に効果的な場所で広報活動を行い、応募数を高める。	1
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	第2回萌える天北オロロンルートフォトコンテスト受賞作品巡回展	H20.12.22~H21.6.26(巡回展)	留萌市、増毛町、小平町、吉前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌支庁	留萌管内9市町村において、フォトコンテスト受賞作品の巡回展を行い、場所の提供及び作品展示の協力を得た。	留萌管内9市町村において、フォトコンテスト受賞作品の巡回展を行い、場所の提供及び作品展示の協力を得た。	他ルートで行っているフォトコンテストと連携して交換展示を今後検討する。	1
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	ヒラメ産建網オナープロジェクト(食材オナー制度プロジェクト)	6月24日	留萌開発建設部 遠別町 留萌支庁	イベント運営協力や地元調整およびイベント会場で萌える天北オロロンルートのパネル展の実施を行った。	地域ブランド構築のため、継続に向けた行政としての支援体制の検討が必要。	★6	
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本と促進	明天の森プロジェクト	9月24日	留萌開発建設部	「明天の森」において、荒廃地の景観向上とドライブ観光で排出されるCO2を吸収するカーボンオフセットの取組も兼ね合わせた植栽を実施。また、昨年度植栽箇所の下草刈りも行った。	行政も協力し継続した維持管理体制の検討が必要。	7	
	地球に優しい「くらしぶり」のお手本と促進	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	7月29日	留萌開発建設部 小平町	国道沿道の自生しているエゾカンゾウの種子採取を実施。今年度は昨年プランターへ植えた種の発芽が非常に悪く、植栽活動は出来なかった。	地域で今後も継続して実施出来るように協力していく。	2	
情報提供活動	ルート活動の情報共有	行政連絡会議情報の配布	通年	行政連絡会議全構成機関	行政連絡会議事務局より、行政連絡会議全構成機関へ「萌える天北」や行政の活動状況を情報共有するため、情報誌を作成し配布した。	概ね2月毎の配布であったが、分かり易く効果的な内容で、今後も継続して作成していく。	8	
	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	道路情報板での「萌える天北オロロンルート」表示	5月~10月	留萌開発建設部	指定ルートとなったことにより、シーニックバイウェイ「萌える天北オロロンルート」を地元や観光客などに認知していただくことを目的に、シーニックバイウェイルート沿線の国道情報板に「萌える天北オロロンルート」の表示を実施。		8	
	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	広報誌でのルート活動の広報	通年	留萌市、増毛町、小平町、吉前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町	管内各自自治体で発行される広報誌に萌える天北オロロンルートの活動状況や活動予定などの情報を毎月掲載。		8	
	国道情報板を活用したルート活動の広報	道路情報板でのルート活動の広報	8月23日~8月24日	留萌開発建設部	吉前町~小平町間の国道を走行する「親子自転車ツーリング」のルート活動において、ドライバーへの注意喚起を促す目的で、道路情報板にイベント開催の情報を掲示した。		★10	
	ルート情報の提供と創出	萌える天北オロロンルートホームページのリンク	通年	留萌市、増毛町、小平町、吉前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	萌える天北オロロンルートの広報の為、各行政機関のホームページに萌える天北オロロンルートHPのリンクを掲載した。		8	
	ルート情報の提供と創出	「るもいfan.net」のリンク及び「るもいfan通信」の掲示	通年	留萌市、増毛町、小平町、吉前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	地域情報発信システム実行委員会で作成している「るもいfan.net」を各行政機関ホームページにリンクを掲載。また、フリーペーパー「るもいfan通信」を各関係機関庁舎内に掲示した。	シーニックバイウェイ及び萌える天北オロロンルートの認知向上のために、今後も継続的に実施する。	8	

※表中「★」はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:萌える天北オロロンルート	報告者:代表 西 大志	報告年月:2009/3/31
--------------------	-------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。 ・住民や事業者の方々の巻き込み盛り上げる取組の強化 ・多様な世代の方々の意識を高めることを期待する 	<p>ルート内において、情報の集約、受発信のあり方としてこれまで、個々各々が行ってきたこと、できなかったことを『情報受発信システム実行委員会』が主体となり、老若男女100名を超える情報員でルートの9市町村の情報を共有し得たことは、連携の形として示せる大きな活動である。</p> <p>また、こうした活動を基に、地元の製品の特性や特色を活かすべくプロジェクトとして『ヒラメ底建て網オーナー制度』プロジェクトを発足、全道はもとより、全国に大きなPRとルート内の食材の品質の高さに対する知名度をあげることに繋がった。</p> <p>その品質の高い地元食材を育てるためにも、北海道西海岸の魅力ある景観づくりと、環境保全に大きく寄与した、留萌管内商工会青年部連合会が主体となり、海岸清掃時に発生する沢山の流木を活用し、炭を精製し天塩川の浄化のため活動したことも新たな取り組みとして挙げられる。『萌天の森』プロジェクトも、シーニックの森の発足もあり、今年度もユニークな植樹が行われているところでもある。</p> <p>新たな取り組みとしては、他にも苫前町で2つのプロジェクトが立ち上がり、歴史と文化を訪れる人に対して伝えるために、どのような設え方があるのか探り、その設えに地元の商店や一次産業従事者がどうかかわるか考えた『寄り道しようよ！ 罷道！！』プロジェクト、訪れる方が通るこのルートを地元の子ども達が、自転車でツーリングし、景観や道について考えた『自転車ツーリング』プロジェクトなど、新たな取り組みがあった。</p> <p>いずれにしても、財源をどう捻出するかという課題にあっては、それぞれのプロジェクト、活動する団体個人が、実情に即した中で、自己財源の捻出と、官民一体となって取組む中で、相互の協力があることが、望ましい形となっている。今後も引き続き、持続的な運営になるようなあり方を追及していくことの課題がある。</p>	

ルート名称:萌える天北オロロンルート	報告者:留萌開発建設部	報告年月:2009/3/31
--------------------	-------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。 	<p>「萌える天北オロロンルート」ルート運営行政連絡会議では、構成機関による活動団体支援に関する現状や課題についてアンケートや意見交換会を実施するとともに、全構成団体へ「行政連絡会議情報」によるルート活動や行政の支援状況をメールリストを通して配信し、ルート活動への親しみと理解を深めた。また、理解を深めることにより人材育成にも繋がりが、今後も継続した情報発信と情報共有を行っていく。</p> <p>今後は、財政支援が難しい状況の下、ルート活動への更なる支援・協力体制づくりをしていくか検討していく。</p>	